

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193300058		
法人名	社会福祉法人 一寿会		
事業所名	グループホームひがしまつやま寿苑		
所在地	埼玉県東松山市柏崎628-1		
自己評価作成日	令和4年10月21日	評価結果市町村受理日	令和5年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネジメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和4年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑は、国道に面していますが周囲には緑が多く、側には畑や神社、交流のある幼稚園があり、とても静かで穏やかな環境です。施設内はバリアフリーでエレベーターや機械浴槽を設けており、歩行困難な入居者も安心して生活できる環境と施設を整えています。
 地域との関わりを大切にしたいと考え、地区のイベントへは積極的に参加するように心掛け、ご入居者と地域の方々が触れ合える機会づくりを行っています。また、外部からのボランティアも積極的に受け入れており、開かれた施設運営を常に目指しております。
 入居されている方一人一人の暮らしや生活リズムを大切にしたいケアを心掛け、その方の意思を尊重した支援を行うように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・コロナ禍の中、「外に出られる機会を取り戻す」との考えのもと、これまで行われてきた移動訪問販売の受け入れや地域の「かかし祭り」への参加などに取り組み、面会などもルールを決めて再会されている。また、入居者の暮らしや生活リズムを大切にしたいケアをリーダー会議を通して見直し、サービスの向上に努められている。
 ・運営推進会議については集合開催を含め、定期的に文書配布も行われ、入居者の状況を発信され、地域の防災対策などを議題に取り上げ、会議参加者の市担当者や民生委員との情報交換も行われている。
 ・目標達成計画の達成時状況についても、職員の防災意識のレベルアップと平準化を図ることに取り組み、避難訓練にとどまらず、防火扉や消火器のチェックに多くの職員が参加することなども実行されたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議・研修を実施することにより、管理者含めほぼ職員全員が法人の理念や事業所の運営方針を理解し同じ方向を目指していると思う。	理念をもとに地域に根差した事業所運営を図り、地区のイベントにも積極的に参加するなどの取り組みが行なわれている。新人職員には入職時オリエンテーションでの教育、ホームページでの理念の周知も行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流やイベントの参加や寿苑としての行事が実施できていない。かかし祭り用のかかし作成などにかろうじて参加している。	「かかし祭り」、「ベンチプロジェクト」などの地域との交流に参加され、地域貢献にも取り組まれている。現在はつきあいは制限されているが、移動販売業者の受け入れなどは継続され、地域とのつながりが形成されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響により認知症に対する地域参加型のセミナー等は行っていない。外部からの電話相談対応は行っている状態。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所でのコロナクラスター発生などのため、運営推進会議の実施回数が少ない。実施時にはご入居者様の状況や施設での様子を写真やデータを使い共有したり、地域の方より情報提供いただいている。	集合開催を含め、定期的に文書配布も行われ、入居者の状況などを発信されている。施設全体が市の福祉避難所に指定されており、会議参加者の市担当者や民生委員との情報交換も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市へ状況報告を行い、連携を心掛けている。	市担当との情報のやり取りはスムーズで、担当者が直接来所されることもあり、アドバイスをいただくなど連携が図られている。また、困難事例の受け入れについて相互に相談したり、防災活動についての話し合いも持たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修や委員会、会議の中で、不適切なケアとは何なのかを理解・把握するように務めている。現状では身体拘束を行っておらず、引き続きケアを実践する。	身体拘束については、毎月テーマを設けて研修を行うことで、職員にも正しく理解されている。特に「声掛けの仕方」など、身体だけでなく精神的な拘束もしないケアへの実践にも取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修や委員会、会議の中で、不適切なケアとは何なのかを理解・把握するように務めている。虐待防止に注意を払いケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修等へ参加し、日々の業務や各ユニット会議等の中で、理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結のための時間をご家族様から頂き、書面および口頭にて十分に説明をし、ご理解・納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には面会方法の見直しを行い、ご来苑された際や電話連絡時等にご意見を頂いている。ご入居者様には日頃の会話を大切にし、ご意見を頂けるように心掛けている。	入居者とは日ごろの会話の中で申し出をお聴きし、随時希望に沿うよう取り組まれている。また、「こんな食べ物は持って行っても良いか」、「洋服を持っていきたい」など、家族からのどんなに小さな申し出であっても対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議または委員会、ユニットでの日々の業務の中で意見を聞き反映できるよう心掛けている。	定例会議や委員会のほか、日常業務の中でも職員間の意見交換は行われ、行事企画や個別ケア対策などを実践されている。拘縮が強い入居者への対応方法などをみんなで「こうしたらよい」と話し合いを重ねて支援されたケースも伺われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所としての方向性を周知するとともに、職務記述・行動基準を策定し業務内容を把握し易くしている。職員一人ひとりが目標をもって就業できるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	直接集まった研修はほぼ行っていないが、内部研修として毎月職員研修を実施している。また、オンラインでの外部研修も実施できるように環境を整えており、積極的に参加をしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインでの外部研修や検討会等を実施し、他施設との意見交換等を行っている。研修の内容に関しては、ユニット会議や各委員会で情報共有できるように心がける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居様の抱えている不安や悩みをくみ取り、ホームでの生活が安心して送れるように努めている。入居後も安全・安心に生活できる様に日々のコミュニケーションの中での関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に、ご入居者様及びご家族様が困っていること等、要望・意向など傾聴したうえで、プランやサービスを組み立て信頼できる関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズをしっかり聞き取り、必要としているサービスが提供できるよう心掛けている。プランの見直し、更新時にご入居様とご家族様の意向を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居様の意向をくみ取り生活を共にする姿勢を作っている。家事活動(洗濯物干し・たたみ等)を日常的に取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とのコミュニケーションを密に図り、その思いや意向を聴くことで、ご入居者様を共に支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも知人が来苑できる環境づくりに努めており、面会も再開しているが、昨期と同様に感染対策の為、人な集まるイベントの実施・地域イベントへの参加はできていない。	手紙のやり取りをしたり、退去された方から連絡が来るなど、限定的だが馴染みの関係継続への支援が行われている。また、遠方の妹さんが訪ねて来られ、面会された事例も伺われる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様一人一人の意見や意向を尊重し、ご入居者様同士の関係の橋渡しと共同生活が円滑に送れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に相談して頂けるように、電話連絡等で関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には、内容が理解できる方には一緒に意向を伺いながらプラン作成し、その他ご自分の意見が発信できない方に対しては、24Hシートやセンター方式を用いて、個々意向を把握するように心がけている。	24hシートを基本に入居者個々の意向を把握するよう心掛けられている。好きなスポーツの話、地下鉄の運転手だった職歴の話題などをきっかけにしながら、本音の思いを聴きだすことにも取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	計画作成担当者は入居前の生活歴や生活環境などの情報を聞き、把握に努めている。また、入居後も日々の生活の中からその方の生活習慣を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24Hシートおよびセンター方式を活用し、ご入居様一人一人の状態に合わせた過ごし方ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した計画になるように半年に一度の見直しを行っている。ご入居様の意向を伺うのはもちろん、ご家族様には来苑時や電話等で意向を伺い反映している。	入居者・家族の意向、ポイントに沿ったモニタリング、医師や看護師の指示も含めてプランが作成されている。現場での記録もケアプランのサービス項目に合わせて記載するなど、プランと現場との一体感も図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動・様子を記録し、それを共有しカンファレンスを通して半年ごとに見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要介護度の変化に伴い、ニーズが変わっていくものと考え、ご入居様・ご家族様の状況に応じたサービスが提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今期は感染予防のため、地域とのつながりが取れる取り組みをほぼ行えない状況である。地域の行事等で参加できる部分には極力参加を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族様の希望を基に、協力病院と連携を行っている。また、事業場内の別部署の看護職と連携を密にし、必要な時に適切な看護が受けられる体制を確保している。	整形外科や精神科などのかかりつけ医へは家族同行で受診され、記録を持参いただき正確な情報が伝わるよう取り組まれている。協力医とは時間外でも対応いただき、医師からの情報や薬の変更などの職員への周知も図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職は常に連携している。体調変化に早期に気づき、看護職との連携で適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、医療機関に情報提供し安心して治療が受けられるように支援している。医療機関の相談員と電話やFAXまたは実調を行う事で、退院がスムーズにできるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居様・ご家族様の意向に基づき、かかりつけ医との相談のうえ、終末期の対応を行っている。終末期は、感染対策を行った上で、面会・宿泊などご家族様との時間を多く持てるように支援している。	段階ごとに入居者・家族の気持ちを確かめ、「最後はどうありたいか」の確認や今後のリスクなども医師を含めて話し合われている。現在、終末期支援の入居者もおられ、家族の面会も含めて対応され、精神的なフォローにも努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを用意しており、敏速かつ適切な対応が取れるように定期的に確認している。また、事業場内にはAEDを設置しており、救急救命の研修も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間想定消防訓練を実施している。地域との協定を結んでいる。運営推進会議にて事業継続計画等の報告を行う形にしている。	定期防災訓練では夜間の火災を想定し、過去に訓練に参加できなかった職員を中心に初期消火、通報、避難誘導訓練などに取り組まれている。毎月の消火設備の点検にも防災管理者以外の職員も参加し、防災意識向上に努められている。	災害対策には十分に取り組まれています。高齢者を預かる事業所として、災害時の組織対応力向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の人格や尊厳を損なわないよう、接遇についての研修を行い気を付けている。また、ユニット会議等で個々のケースに対する話し合いを行っている。	入室時のノックなど基本的なプライバシーを守り、更に言葉使いや声のかけ方などの接遇研修も実施されている。「認知症だから何もわからないわけではない」との考えに立ち、入居者には説明と同意を得ることで人格の尊重にも取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居様の希望や意向をくみ取れるよう、質問は疑問形で聞くようにし、ご入居様が気軽に希望を言えるような信頼関係を構築するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントで得たご入居様のこだわりや大切にしていること、習慣についてできるだけ沿うように努めている。24時間シート等を参考にし、その方らしい生活が送れるように実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで日常で行っていたように、生活歴を参考にその方らしい清潔感や季節感ある身だしなみを支援している。また、定期的に理美容を利用頂き頭髪を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい食形態を栄養士・看護師・医師と相談している。米研ぎや配膳、後片付けは職員とご入居様で一緒に行っている。旬のメニューや配膳時間を季節によって変更するなど工夫している。	毎月1日に赤飯が出され、祭日に合わせて特別食も提供されている。食事形態もそれぞれに対応されるほか、季節感も大事にされ、スイカやメロンなどの果物や流しソーメン、お菓子づくりなどが企画され、入居者も参加することで食事を楽しまれている。	食事については様々な企画と工夫が図られています。家族の関心が高いことから、日頃食べている物を家族にも知っていただけるようメニューや写真を家族に届けるなどの取り組みに期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・排泄量・体重を把握し一人一人の状態に応じて支援している。また、法人内の栄養士に相談し食事形態を変更するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合った口腔ケアを毎食後行っている。また月2回、歯科医が往診に来ているので、必要に応じて治療や口腔内を看てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、一人一人の排泄パターンに沿った支援を行っている。自室のトイレに手すりを設置し、安全に排泄が行えるような環境を整えている。	排泄チェック表とその時の状況も考慮した支援に取り組まれている。オムツをトイレに持って行く際には他の人の目につかないようにするなど、プライドや羞恥心への配慮もなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護職と情報を共有しながら、緩下剤を極力使用しないように、十分な水分補給と適切な運動等で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各ユニットにある家庭のお風呂と変わらない個室と、自立度によっては負担が少なく安心して入浴できる機械浴を提供することで、入浴を楽しめるよう支援している。	職員と1対1での個室支援を基本に、機械浴も取り入れながら、週に2～3回のペースで入浴いただいている。入浴中は職員との会話も楽しまれ、また、菖蒲湯や柚子湯などの季節湯も提供され、安全対策をとりながら支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じた声掛けを行い、休息して頂いている。夜間気持ちよく休んで頂けるように、日中の活動に配慮している。また、自宅で使用していた寝具でお休み頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職が中心となり服薬の支援をしている。かかりつけ医・看護師・薬局と連携し、病状の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴に沿って、趣味や得意分野を活かせるような環境づくりや、日々の暮らしが充実したものになるよう、家事仕事など役割を持っていただく支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨期と同様、感染対策のため外出する機会を持つことが難しいが、日々の生活の中で施設の周りを散歩することで、季節感を感じたり気分転換を図っている。	行動が制限される中、職員が様々な工夫をしながら、密を避けて分散した外出支援が行われ、花見や散歩、年始の初詣などに出かけられている。外の駐車場で「かかし祭り」の作品を前に写真を撮ったり、建物の周りに花を植えるなどの取り組みも行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居様は自身のお金を使って好きな物を購入する楽しみを持つため、今期は移動販売を再開しご利用いただけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や知人から手紙が送られてきたり、ご入居様が電話をしたり、それが難しい方には職員が代理でご家族様に口頭もしくは電話で連絡するなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、月ごとの行事を行うことで季節間を味わって頂いている。また、気候に合わせた衣類の選定。布団を干すなど寝具の手入れをするなど環境を整えている。	フラワーアレンジメントなどの季節感のある飾りがなされ、入居者は集まってにぎやかに談笑されている。転倒事故防止のため、極力物を置かないよう整理整頓され、机のレイアウトなども入居者に合わせて変更するなどの工夫も図られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には、ソファやテレビ・本・雑誌・趣味の物があり、ご入居様が思い思いに過ごして頂けるような、空間づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居様やご家族様の意向に合わせ、自宅より使い慣れた家具や思い出の写真などご用意頂き、居心地良く過ごせるようにしている。	安全のための手すりが設置され、使い慣れた家具、仏壇や写真などが自由に持ち込まれている。居室内では好きな本を読まれたり、テレビの野球観戦をするなど、入居者それぞれの生活習慣の尊重した支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居様一人一人の動線を考え、テーブルや椅子を配置し、動きやすく危険が少ない環境づくりと職員の配慮を心掛け、安全で自立した生活が送れるように支援している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームひがしまつやま寿苑

目標達成計画

作成日: 令和 4年 12月 14日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年に2回定期的に夜間想定消防訓練を実施しており、訓練時に各職員がローテーションで参加できるように勤務を組んでいる。昨年度と同様、全職員が同じよう行動できるよう、災害に対する意識と知識の向上が必要。	職員全員が自然災害や感染症等に対する意識を高め、実際の場面において全員が指針に沿った行動ができるようになる。	災害時における組織対応力向上を目指し、継続的な訓練と研修会の実施を行う。参加できない職員についても資料配布等でフォローアップを行う。	12ヶ月
2	19	定期的にブログによる情報発信を行っているが、まだ情報発信力が足りないと思われる。イベント時だけでなく、日常の様子等も発信しけるようになれば良いのではないか。	季節ごとのイベントだけでなく、日常における生活の様子なども分かりやすく外部へ発信する。	レクの予定や毎月のイベント食などの情報発信可能な素材、ブログだけでなく手紙や写真など、日常生活を分かりやすく伝えられる物を検討する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。